

巻頭言



取締役社長 稲村純三

新年明けましておめでとうございます。皆様方には佳き新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃より「明電時報」をご愛読いただき厚く御礼申し上げます。

昨年の我が国の経済は後退局面に入り、世界経済は金融危機とも言える状況で、今後の見通しは極めて不透明感が強く、非常に厳しい経営環境が続いております。

このような情勢の下、当社は現在、次期中期計画の策定中ですが、企業理念である「お客様に安心と喜びをご提供し、より豊かな未来をひらく」ために、メーカとしてものづくりを大切にし、常に新しい技術、品質の高い製品を創り続けていくことで、社会の様々な場面でお役に立てる企業を目指して取り組んでまいります。

今後の経営環境は、地球環境問題、資源・エネルギー問題への対策が世界規模で進んでいくこととなります。低炭素社会の実現、水資源の確保、自然エネルギーの利用など、当社がコア技術を持つ分野に大きなビジネスチャンスがあると思われまます。

その実現に向けて当社は、環境負荷低減と環境配慮設計を進め、持続可能な社会の継承のためにライフサイクルエンジニアリングを提案し、エネルギーコスト削減にはエネルギーソリューション、クリーンな環境と資源循環型社会には環境ソリューションなどの提供により地球環境問題に貢献できると考えています。

今回「平成20年の技術成果」号をお届けするに当たり、エネルギー、環境、産業、情報通信、メンテナンスの5分野の新技术・新製品開発成果の一端をご紹介します。

エネルギー分野では、非常用ディーゼル発電設備用新形高圧搭載盤の開発、配電総合自動化システム、ハイブリッド絶縁開閉装置や、太陽光発電用PCSなどをご紹介します。

環境分野では、画像配信システム、携帯電話網を利用した監視システムなどをご紹介します。

産業分野では、既設設備の停電時間短縮を考慮した特高設備の更新、電気自動車駆動用PMモータ・インバータの開発、各種無人搬送システム、低温負圧対応大容量エンジン試験設備などをご紹介します。

情報通信分野では、産業用コンピュータ^{ミューポート}μPORT M5やボールネジ式可変真空コンデンサなどを、またメンテナンス分野では、ライフサイクルエンジニアリングにおける設備診断の適用事例などをご紹介します。

以上、平成20年における新技术・新製品の一端をご紹介しますが、当社はおお客様の視点に立った製品の提供を目指して更なる技術の研さんに努める所存です。皆様方の引き続きのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。